広　報　誌

わかたけ

2018. 10
21号
社会福祉法人 宰府福祉会
http://saifu-fukushikai.com
法人本部事務局
福岡県太宰府市大佐野 761-1
発行責任者：草本武俊
編 集：広報委員会

今号の主な内容

1ページ.　「地域共生社会をめざして」　事務局長　藤川 曜子
やまももマイクロバス助成完了のお知らせ
2ページ.　やまもも開設20周年記念式典
3ページ.　宰府園祭り2018開催！
各拠点のコラムコーナー
4ページ.　連載「宰府福祉会40年の主な歩み」第2回
5ページ.　法人研修会
勤続永年表彰式

「地域共生社会をめざして」

事務局長　藤川　曜子

はじめに、このたびの九月六日に発生しました北海道胆振東部地震及び大阪府北部地震、西日本豪雨災害により、被災をされた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

北海道胆振東部地震の被災地における社会福祉施設等の被害状況に関する情報では、厚生労働省情報（九月十四日七時現在）を概略すると、高齢者関係施設では、五か所で骨折及び破傷の人的被害があったが、すでに処置済み。二十二か所の施設では水漏れや建物に亀裂が入るなどの被害があったがサービスの提供に影響はなかった。うち一施設ではスプリンクラーの誤作動により施設内が水浸しとなり、入所者は別施設へ避難。障害児・者関係施設では、現時点では人的被害なし。障害者支援施設四か所、支援事業所等十六か所において外壁の亀裂等、うち一施設において入所者は別施設へ避難。引き続き情報収集が行われています。

このような情報を受け、浸水により入所者を他施設へ避難させざるを得なかった施設、何日間もライフラインが断たれ、物資の供給困難等や職員の出勤が困難による厳しい状況は、ご利用者や職員の不安は計り知れません。当法人もけして他人ごとではありません。ご利用者や職員の安全確保を関係者団体等の支援体制の協力や地域住民等の支援協力活動をお願いせざるを得ないときに、日頃からの地域の方や関係機関等との連携が不可欠であります。

また、一方では地域において社会福祉法人は社会資源として災害時に果たすべき重要な役割を担っています。当法人としましても、これらの役割を果たせるように体制づくり等に早急に取り組んでいかなければならないと考えています。

昨年、社会福祉法の改正により全ての社会福祉法人は「地域における公益的な取組」が責務化されました。制度の狭間にある地域社会の課題への対応が求められる中で、現在、当法人では生活困窮者支援として在宅単身高齢者の支援で就労支援や生産活動の機会の提供、通院支援、緊急時の対応等の取り組みを実施しており、福祉教育活動では地域の小中学校等からの訪問受け入れや実習生、研修生の受け入れを通して、人材育成や関係機関とのネットワーク構築に取り組んでいます。また、地域の他機関とのネットワーク活動としてご利用者が地域でのイベントに参加、行政の主な団体（高齢者施設や障害者施設、居宅事業所など）と情報共有や意見交換などを行っております。

また、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄与するために、ペットボトルキャップを回収し、イオングループへの提供に取り組んでいるところです。

今や誰もが、少子高齢化による様々な問題や生活困窮等の困難な問題などは福祉に関与せずにはいられない状況であり、地域に開かれた社会福祉法人の存在意義は、まさに「地域共生社会をめざしていくための「コミュニティ（地域社会・共同体の意）作りの核になることです。地域住民が有するニーズの多様化、複雑化した様々な課題に対応していける社会福祉法人としても更に専門性の力が求められます。

また、一法人では限られた制度で対応できない地域の課題等が非常に困難で解決できない場合もでてきます。こういった場合に県内の社会福祉法人が種別の枠を超えて連携し、課題に取組む等、「ふくおかライフレスキュー事業」運営員会事務局（福岡県社会福祉協議会施設福祉部施設課内）が平成二十九年四月から開始され、各地区で連絡会（社会福祉法人のネットワーク）が発足され、出来る範囲で個々の法人の状況にあわせての取り組みができることから、当法人も今年六月に参加致しました。地域の困りごとの解決に努めるため、この事業を活用しながら、更に専門性を活かし複合化した問題、課題に取り組んでいける法人として、地域の皆様から信頼される社会福祉法人宰府福祉会を目指してまいります。

宰府福祉会のロゴマーク
【意味】
太陽の輝きのイメージと
人の連帯のイメージを重ね、
共に歩み、進むことを表現しています

社会福祉法人 清水基金様　ありがとうございました

平成３０年８月２日に社会福祉法人清水基金様から、平成２９年度助成事業により、送迎や外出行事等で使用するマイクロバスの納車が完了しました。約２０年間、活躍してくれた旧マイクロバスと同様に大切に使わせていただきます。職員一同、安全運転により一層心掛けるとともに、社会福祉法人清水基金様をはじめ、ご協力頂いた関係者の皆様に感謝申し上げます。

（やまもも施設長　深町美代子）

やまもも 開設20周年記念式典

やまももでは、去る９月１日に「やまもも開設 20 周年記念式」を執り行いました。この日を迎えることができましたのも、ひとえにやまももの活動を支えていただいた、地域の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご理解、ご協力のおかげと、心から感謝しております。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、多くの皆様方にご臨席いただき、「やまもも」らしい手作りの心温まる記念式を終えることができました。誠にありがとうございました。

平成 10 年９月開設から今日まで、やまももは、「利用者の主体性」を大切にしてまいりました。わからないことは保護者に学び、利用者の方と共に、様々なことを作り上げ築き、常に質の高いサービスと誠実なサービスを提供することを心がけ努力してまいりました。

今後は更に地域生活の様々な課題や多様化するニーズに対し、やまももに課せられた使命と役割は大きなものになってまいります。利用者、家族、地域から求められていることを敏感に捉え、ひとつひとつ丁寧に応えていくことが私どもの使命であると考えております。

この 20 年間の経験とこれまで築き上げてきたものを根底にして、職員一同、更なる研鑽を積み、地域に根差した利用者本位の質の高いサービスを提供し、より良い施設運営に取り組んでまいります。

これからも皆様の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（やまもも施設長　深町美代子）

《 第一部　記念式 》

関係機関の皆様、地域の皆様と沢山の方にご出席頂き、お祝いをして頂きました。また、式典に向けて、利用者の皆さんで、活動時間を使って練習していた“ビリーブ”を感謝の気持ちを込めて歌いました。

『 20 年の歩み 』と題して、上映したスライドショーは開所から現在までを振り返りながら、思い出に浸る時間となりました。

《 第二部　食事会 》

日頃から食事提供をして頂いている東洋食品様のご協力のもと、和洋折衷のメニューをビュッフェスタイルで食事提供をいただきました。

会食中は、那珂川吹奏楽団様の演奏に耳を傾けながら、時折曲に合わせて手拍子を交え、楽しい食事の時間となりました。

《 保護者会　余興・抽選会 》

会食後は、保護者会の皆様にバトンタッチし、フラダンスを観ながら優雅な雰囲気に始まり、会場全体を巻き込んで、西城秀樹の『ヤングマン』の曲に合わせて“Ｙ・Ｍ・Ｃ・Ａ”と歌いながら踊り、大変盛り上がりました。その後の抽選会の景品も、「どんなものがいいかな」と考えて頂き、保護者会の皆様に準備して頂きました。ご協力頂きありがとうございました。

★みんな大好き♡
うまかっちゃんコーナー

★景品を狙え！
ゲームコーナー

★大人気！！
バザー品コーナー
大手百貨店の拾得物(忘れ物等)を格安で提供！

★練習の成果を披露★
ステージコーナー

「宰府園まつり2018」開催！！

～支えられて40年～ 友情 感動 愛情 をありがとう❤

10月28日(日)10時～15時

場所：宰府園（太宰府市大佐野761－1）

最後は**お楽しみ抽選会**にて豪華景品をご用意いたしております！
その他利用者さんの作品展や木工・ビーズ商品も販売♫　☆多数のご来場を心よりお待ちしています～～

各拠点のコラムコーナー

やまももの「誕生日会」

グループホームやまももで誕生日会を行ないました。“Ｈａｐｐｙ Ｂｉｒｔｈｄａｙ”を歌ってお祝いをしたあと、誕生者の利用者の方に一言ずつ言ってもらい、みんなでケーキを食べました。

にじの「園芸活動」

今年も暑くなりましたが、水やりや草取りをして、ナス、キュウリ、ピーマン、オクラなどの野菜がたくさん出来ました。

宰府園の「演奏会♪」

演奏会のボランティアに来ていただいている保護者様が、オカリナとギターで美しい音色を奏でてくださいました。入所の方々は思わずうっとり…♡
大変好評で次回の演奏会も楽しみにされています♪

ゆり工房の「ナイター観戦」

平成30年8月24日（金）ヤフオクドームに福岡ソフトバンクホークスＶＳ埼玉西武ライオンズの白熱した内容のナイター観戦に行ってきました。３対２でホークスが勝ち大変盛りあがりました。

放デイみつばちの「そうめん流し」

今年の酷暑の中、子ども達は、自分たちで育てたトマトやねぎを切り、そうめん流しに彩を加え楽しみながら、お腹も満たし大満足！
楽しい食事で夏を乗り切りました。

連載　「社会福祉法人 宰府福祉会 四十年の主なあゆみ」　第二回

―成長期から発展期―
（平成十年～平成十七年）

○社会福祉基礎構造改革から、障がい福祉の転換点の「支援費制度」へ

平成十五年、今までの「措置制度」から「支援費制度」に変わりました。社会福祉基礎構造改革に基づき、平成十二年、社会福祉法が成立し、高齢者分野では、介護保険制度が施行されました。その前の平成十年にＮＰＯ法が、施行されています。平成十六年には、発達障害者支援法が制定されました。大きな、福祉の転換期となっています。

○事業の拡大とやまももの開設

法人は、これまでの二十年の実践を経て、地域福祉の拠点を目指す、基本理念の実現を使命として、しっかり応えていくために、平成十年、那珂川町不入道に、地域住民の協力を得て、『知的障害者通所更生施設やまもも』を開設しました。

もともと、『知的障害者通所更生施設やまもも』の開設は、これまでの、二十年間の実践を通じて、保護者や当事者の想いに応えるということから、実現に結びついたものです。

○『やまもも』の基本方針と実践

『やまもも』は、生産活動よりも、「生活」「作業」「自立活動」を支援の柱とし、「身辺生活の確立」と「社会生活の適応」を図り、利用者一人ひとりが自分の能力や個性を生かして、豊かな地域生活ができることを基本方針としています。

平成十五年には、郵政省お年玉付き年賀はがき寄付金の補助金で、鶏舎と作業場を整備し、情緒的サポートの働きかけとして取り組みましたが、後の鳥インフルエンザ流行もあり、野菜栽培に切り替えました。

第１回やまもも文化祭

○『グループホームやまもも』の設置と地域生活支援

『やまもも』は、地域生活支援の方針に基づいて、早い時期から、『やまもも』施設内の、宿泊体験等を実施し、利用者のグループホームでの生活の実現に取り組んできました。

平成十三年に『わかたけ寮』を開所し、グループホームの支援を始めました。平成十四年、『寺内ホームアンダンテ』を開始、そして平成二十五年、念願の障がいの重い人も利用できる、『グループホームやまもも』を開設することができました。短期入所も併設し、地域生活の支援をしています。

○『福岡県障害児者地域療育支援事業』を受託運営

平成十四年、在宅の障がい児者の療育や相談の充実を図り、地域生活を支援する事業を、『やまもも』をバックアップ施設として受託運営を開始しました。

○『宰府園』の地域との関わりと利用者の自立への挑戦

平成十一年、『宰府園』開園二十周年記念として、利用者、保護者、職員の総勢百名を超す参加者で、ハワイ海外旅行を実施することができました。又、平成十五年には、開園二十五周年記念式典を、利用者、保護者、職員の参加を得て、シーホークホテルで開催しました。

『宰府園』建物の、快適さのためのバリアフリー化を行うため、平成十三年、浴室の全面改修を行いました。

総勢１００名を超す　ハワイ旅行

平成十二年、介護保険制度が始まり、『宰府園在宅サービス』の訪問介護事業を開始しました。介護保険事業については、平成十九年に廃止しましたが、現在、障がい福祉の居宅介護事業に引き継いでいます。

その他、平成十五年九月、太宰府市から移譲された、心身障害者通園事業の対象者７名の支援を、『障害者活動センターさいふの園』を『宰府園』内に移転運営を開始しました。

○『ゆり工房』『にじ』の春日市からの委託運営

平成十二年、春日市から、『知的障害者通所授産施設ゆり工房』『障害者デイサービスセンターにじ』の委託運営を開始しました。

委託運営の経緯としては、平成十年、春日市内の三か所の無認可作業所等を統合して、複合型福祉施設を整備することになりました。運営委託として、筑紫福祉圏域での、実績評価を受けて、当法人が指名され、市と協働して計画協議を行い、現在の運営となりました。

春日市福祉ばれっと館オープニングセレモニー

○『ゆり工房』の基本方針と実践

『ゆり工房』は、知的障がい者の通所授産施設として出発し、パンの製造、木工作業、さをり織手芸作業を科目として、生産活動を行っています。現在の事業は、就労継続支援Ｂ型事業を中心に、就労移行事業、生活介護事業を行っており、支援の効果である利用者工賃は、春日市の全面的協力を得て、県内の平均工賃レベルを維持しております。

平成十五年、『ゆり工房』の定員を三十名から三十五名にして、在宅障がい者の受け皿を、増やして対応しました。

○「にじ」の基本方針と実践

『にじ』は、障がい者デイサービス事業としてスタートし、新体系移行により、生活介護と生活訓練の事業を実施しています。障がいの重い方たちを利用対象としており、法人内事業の中でも、介護技術と意思決定支援やコミュニケーション支援が、求められる事業となっています。

○『知的障害児通園施設すみれ園』の開設

平成十五年四月、太宰府市から知的障害児通園施設と心身障害者通園事業の移譲を受け、平成十六年四月に、当法人は、『知的障害児通園施設すみれ園』として開園しました。

心身障害者通園事業の利用者八名は『障害者活動センターさいふの園』として、平成十五年四月から八月まで、現施設で運営し、九月に『宰府園』に移転して運営を継続しました。『すみれ園』の建物は、大型修繕を行い、就学前の障がい児利用対象の通園施設としてスタートすることとなりました。

平成十六年四月『すみれ園』が開園されたことにより、筑紫圏域における障がい幼児の集団生活の場の保障が、されるようになりました。

『知的障害児通園施設すみれ園』開園と共に、福岡県障害児等療育四事業を、『やまもも』から『すみれ園』に拠点を移して、通園児童及び在宅障がい児童に関わるようになりました。

すみれ園開園記念式典

（次号へ続く）

平成 30 年度　第一回　社会福祉法人宰府福祉会
法人職員研修会 を行いました。

【テーマ】　「サービスの質の向上」
【趣　旨】　現在、社会情勢は刻々と変化しています。個人や地域が抱える問題は複雑化し、社会福祉法人に求められる福祉ニーズも多様化、複雑化しています。そのような中、宰府福祉会は第 2 期中期経営計画がスタートし、組織強化を図りながら、利用者、保護者、地域の皆様の福祉ニーズに応えていくべく、前進しています。今回の研修会で現場の中心を担う職員を対象に法令順守・CS（顧客満足）の知識を深めていくことで、更なるサービスの質の向上を目指していきたいと思います。

参加者の感想

今回の一般職研修の事務職員グループでは「事務職員に求められるサービス」について討議しました。福祉施設の事務員として心得ておくべきこと、実践していること、疑問点など意見交換を行い、実際の業務に活かせるノウハウを知ることができました。また、勤務年数の長い上司の貴重な意見や経験談を聞くことができ、得るものが多かった有意義な研修となりました。ここで学んだことを実際の業務に取り入れて、サービスの質の向上、事務職員としてのスキルの向上につなげていきたいと思います。

（事務員　藤原 美智子）

理事長講話では、サービスの充実と職員の環境改善への取り組みをお聞きしました。また外部講師による一つは、CS顧客（利用者）満足ではビジネスコミュニケーションや基本的なマナーを、二つ目は、安全運転のポイントでは「ゼロイチ・ゼロ二運動」の大切さを再認識しました。

午後の事例検討では、利用者にミトン（身体拘束）を着けるのがいいのかを話し合い、権利擁護や職員間の報・連・相の大切さを再認識しました。各施設での対応や悩みなどをお聞きし、支援のむずかしさを感じるとともに、工夫や利用者の思いに沿ったサービスを感じました。支援にこれでいいと満足せず、よりよいサービスがないか職員全体で考えていきたいと思いました。

（看護職員　吉福 美紀）

平成 30 年度永年勤続表彰式を行いました。

8月25日（土）に永年勤続表彰式を行いました。

○勤続年数満十年	
内薗 麻美（すみれ園）	入口 紀子（やまもも）
○勤続年数満五年	
稲永 心（やまもも）	瀧口 奏子（ゆり工房）
宮原 里美（法人本部）	冨永 早紀（宰府園）
岡 裕香（すみれ園）	西島 智恵美（にじ）
樋本 由香（にじ）	吉福 美紀（にじ）
唐島 沙織（やまもも）	